

部品製造で選手に貢献

フェンシング 宮脇花繪さん 来富



富士市大洲で自動車部品などを製造するダイワ・エム・ティ(和久田恵子代表)に17日、フェンシング女子フ

ルレで、東京五輪での活躍が期待される宮脇花繪選手が訪れた。同社は、宮脇選手が使用するフェンシング

の剣を握る柄の部分「ヒルト」を製作。フェンシングの道具は欧米製が主流で、大きいため小柄な宮脇選手の手に合ったヒルトがなかった。奇跡的に見つかった小さなヒルトを長年愛用していたが破損。オリジナルのヒルトを製作できる会社を探していたところ、同社を紹介された。

宮脇選手は現在、慶應大経済学部2年生。11月までイタリア留学中で、きょう18日、19日に京都で行われる大会のために一時帰国。会場に向かう途中で同社を訪ねた。

社を訪問した。宮脇選手は同社のヒルトについて、「自分の求める究極のヒルトに近づいている。滑り止めの加工や溝の深さ、全体の重さなどの細かい要望を短期間で叶えてもらい、非常にありがたい」と話した。

製作に携わった社員との間では、ヒルトの改良点についても議論。脇選手が図を描き、親指が当たる部分の角度や溝の位置などを説明する場面も見られた。

和久田代表は「社員全員が宮脇選手を応援している。2020年の東京五輪での活躍に

向け、サポートしていきたい」とエールを送った。

